



うちのイチ押し!

森の宮遺跡展示室の一般公開をおこないます

森の宮遺跡は、上町台地の東斜面に位置する縄文時代から江戸時代までの遺跡です。森ノ宮ピロティホール地下には西日本を代表する縄文～弥生時代の貝塚があり、「森の宮貝塚」とも呼ばれています。

当時の人々が使用していた土器や、狩猟や漁労の道具のほか、縄文人の埋葬人骨を発掘調査で見つかったままのすがたで展示しています。

展示室は年に数日しか一般公開していません。ぜひこの機会にお越しください。

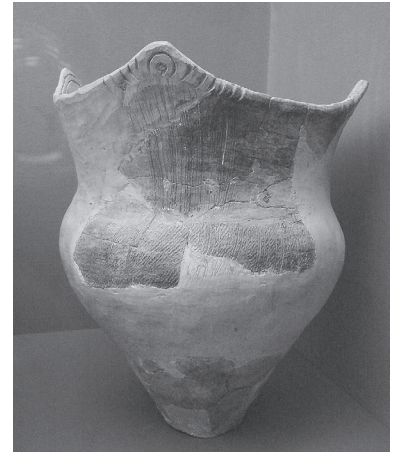
日時 平成31年4月13日(土) 午前11時～午後3時

費用 無料 **申込** 不要

※定員はありませんが、展示室がせまいため、混み合う場合は入室をお待ちいただくことがあります。

主催 大阪市教育委員会事務局 文化財保護課

問合せ TEL 6208-9169・FAX 6201-5759



約4000年前の縄文土器



森の宮遺跡展示室 (森ノ宮ピロティホール地下階)

【住所】大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5
【最寄駅】中央線・長堀鶴見緑地線森ノ宮駅
2号出口から徒歩1分
JR環状線森ノ宮駅から徒歩3分

※森ノ宮ピロティホールには、
駐車場・駐輪場がありません。
公共交通機関をご利用ください。



おおさか歴史探訪 132

大阪の史跡や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

浮かせてい 浮瀬亭

— 江戸時代の大阪を代表する料亭。集う文人墨客。 —

上町台地は天王寺のあたりから大阪城にかけて半島状に伸びる高台です。西側斜面は急な崖状の地形となっていて、海岸線が今よりも近くにあって、台地上は大阪湾を見渡すことができる景勝の地として知られていました。中でも、四天王寺の塔頭である新清水寺の境内にあった舞台からの眺望は、大阪一の絶景といわれていました。

その北側の清水坂に面して、料亭「浮瀬亭」がありました。江戸時代、大阪を代表する料亭であり、江戸にまで知られていて、『東海道中膝栗毛』(1802～1814)にもその名がみられます。大阪の名所旧跡を紹介した『撰津名所図会』(1798)や、『撰津名所図会大成』(1855)などにも取り上げられています。それらによると、「西南方向の眺望がよく、海原を行きかう百船の白帆、淡路島にかかる三日月はとても趣がある。雪景色はさらに美しい。」といったことが記されています。挿絵によると総2階建ての立派な外観で、大阪湾側に大きく開けた座敷構えになっています。もともとは「晴々亭」という名前でしたが、所有する鮑の貝杯の名が浮瀬といい、これが有名となり、いつしか料亭の名前となりました。

多くの文人墨客がここを訪れ、大阪湾の景観と酒肴を楽しんだといわれています。俳聖松尾芭蕉(1644～1694)も元禄7(1694)年9月、死の直前にここで句会をひらき、「松風の軒をめぐりて秋くれぬ」を残しました。後に芭蕉を慕う与謝蕪村(1716～1784)もここを訪れ、句を詠んでいます。俳句文学史上にも記念すべき地といえることができます。

(大阪市教育委員会 文化財保護課)